



What's J-Cycling?

〒753-0214

山口市大内御堀 4044-8

博友舎内

TEL090-5573-9372

FAX03-6368-4661

bikejoyq@mbr.nifty.com

(きらめき財団申請時連絡先)



Think サイクリング山口メンバー各位

猛暑の候、皆様におかれましては益々ご活躍のことと拝察します。

さて、以前よりお伝えしておりました「臨時集会」を、下記のように開催致します。お忙しいとは存じますが、ご出席の程、宜しく願い申し上げます。

尚、当日(8月3日)午前中までに出席確認をお願いすると同時に、欠席の場合は、欠席者アンケートをお願いします。

2022年8月2日

Think サイクリング山口・事務局企画担当/石丸英明

～Think サイクリング山口/臨時集会のお知らせ～

◆日時:2022年8月3日(水)18:00 集合準備～18:30 開始～20:30 終了～21:00 片付け・退室

◆場所:山口市小郡令和1-1-1/KDDI 維新ホール会議室 203

※JR 新山口駅北口・徒歩3分(隣接駐車場あり)/マップ参照

◆議題

1)事業内容変更について

⇒「情報発信フリーペーパー編集発行」と「人材交流学習トレジャー模擬実施」から「自転車月間スクールの実施要領作成」と「スクールのひな型作り」への変更についての意見交換と承認。

2)会員について

⇒「規約第四条(会員)目的を達成するための志を有する者を会員とする。」「へ、「スクール」開催を担当する個人や活動団体と、その場所等を提供する管理団体とする。」を追記することへの意見交換と承認。

3)体験参加について

⇒9月4日ブレイド亀山への体験参加および11月6日阿東自転車さんぽへの運営協力をする事への意見交換と承認。

4)PR 活動について

⇒県内外の関係者への呼び掛け及び会員募集についての意見交換。

5)提案型ソフト模擬実施

⇒学習トレジャーハント26の山口市内での実施について、石丸が担当で進めることについての意見交換と承認。

6)総会について

⇒実施時期および担当者についての意見交換。

7)スクールズ 2023 プレ企画について

⇒構想についての説明～企画調整の担当部会設置についての意見交換。

8)その他:ロゴマークの公募、予算管理、他

◆出席確認:□出席します。 □欠席です。

◆欠席者アンケート

⇒議題1)～8)について、ご意見や質問があればお願いします。

⇒また、1)、2)、3)、5)については臨時集会に一任しますか?

※オプザー参加も検討予定でしたが、呼び掛け時間が無いため断念したいと思います。

～臨時集会報告～

◇出席者:市川、三明、志賀、弘重、常原、石丸(敬称略)

◇議事進行は、石丸のひとり語りに進め、質問への回答や、意見を求めたりした。

◇柳井からの2名が到着する前に、将来性と方向性について質問があり、4年計画であること、今後の会員が引き継げる内容を模索することを説明。きらめき財団助成金の条件や、情報発信や人材交流のタイミングからそう考えており、図にすると以下ようになる。

Table with columns for years 2022-2025 and rows for funding categories like 助成金1, 助成金2, etc.

◇出席予定者が揃ってから議題に沿って進めるが、それは申請内容変更後についても。そのため設立の経緯についての質問が。それに対して裏議題として以下を挙げる。

- ・日常利用とスポーツ利用の架け橋
・ツーリングとレースの連携
・サイクル県やまぐちPの後継企画
・先行山口として春需でソフトの具現化
・補完企画実践スタッフ育成の断念
・一般道の自由使用の掘り下げ

◇議題1:事業内容変更には、特に異論は無かったが、「自転車月間スクール」の必要性、継続性、準備範囲、運営等については議論噴出。(別記参照)

◇議題2:曖昧な表現から具体化したつもりだったが、それでもイメージが沸かない。スクールズをサポートする個人や団体とすることを確認するが、スクールズ企画書の中で再調整。

◇議題3・4・5はまとめて進行。体験参加や模擬実施と言った秋の活動は石丸が担当し、それに合わせてPR活動(会員募集)を考えているが、発起人の係わりをどうするか?と、投げかける。それに対し、「何故トレジャーハント26なのか?」「PR活動の対象は誰なのか?」「別枠の模擬実施も可能なのか?」等の質問が。⇒何故:当初「学習トレジャー」の普及活動をメインに据えていたが、スクールズの一項目になって薄まったが、実績から必要と考えている。但し、地味なイメージは認識している。⇒対象:ショップに来店する普及活動に興味のある愛好家だが、石丸的にはTHT26を仕込めるスタッフを期待。⇒別枠:スクールズのひな型作りとしては必要な作業のため、逆をお願いしたい。その上でPR活動は、スクールズ企画書内で調整。

◇議題6:模擬実施後に行うとして12月か1月に場所は維新ホールを想定し、秋の活動の中で調整。

◇議題7:構想については議題1で説明済みで、スクールズ2023プレ企画の企画書作成時に調整。

◇議題8:ロゴマークは「仮」状態で使うとして、臨時集会案内時から、流用部分をオリジナルに差し換え、キャッチコピーを「What's J-Cycling?/日本のサイクリングとは何?」に変更。如何でしょうか?

また予算管理と、その他に含まれる補完企画との連携は持ち越しに。

◇補足:ツーリングコンペティション・他/当日使用していない用語での補足解説。今後も使用する可能性があるため、別記をご覧頂ければ。



終了後、会場の玄関前で。

◇議題1(別記)

事業内容の変更については、特に異論は無かったが、「自転車月間スクールの」必要性、継続性、守備範囲、運営等については議論が噴出した。

その議論(質疑)には、「助成金への依存」「運営負担の集中」「リスクの回避」「実施時期の分散」「代表者の道義的責任」「告知の難しさ」「ライセンス制度」などがあつた。

それらを説明する際に、断片的にスクールの構想を語つたが、その「リスタート考」が下図になる。

★構想30年

先行山口で再浮上！やっぱり回帰サイクリングスクール

【妄想ジャパンバイシクルアカデミー/JBA】

⇒それぞれの立場でトップライダーが自転車月間で同時多発的に自転車教室を行う「春需でソフト」の最終目標！

⇒自転車協会や自転車普及協会など公益普及活動団体と、在野の趣味余暇活動グループとの架け橋を担う。

⇒JBAが「Thinkサイクリング山口」に相当し、それ以外が玉石混交自転車ソフト実践の在野グループとなる。

★構想25年

先行山口の出城！？ついに見つけたリパティフィールド通地

【妄想府谷ベース/リパティフィールドNISHIKI】

⇒地域+ユーザー+ショップ、三位一体で維持管理する、通年利用可能な日本流トレイルメンテナンス実験基地！

⇒希望的展開案

⇒エリア内企画/※MTBツアーズ定期開催/※仙道調査&道管請
/※車両搬送サービス/※MTB仙道走行スクール/※月変わりコース
/※ラリー開幕戦と閉幕戦/※とれとれTJ/※カフェ&ロッジ

⇒連携広域企画/※MTB三昧ツアー/※廃校通学路探索/※旧街道探索
/※六日市トンネル活用企画/※スペシャルサイクリング企画
/※コマ地図ブルベ/※学習トレジャー/※150トーナメント
/※BGMシリーズ戦/※さんいん1300/※春需でソフト同時多発スクール

※「構想30年」と「構想25年」の「リスタート考」は、「やましろMTBツアーズ2022春企画」の実施後に、地元協力者への説明用資料マップに書き添えたもので、「Thinkサイクリング山口」と「補完企画」の関係性も示している。

どちらも輪界関係者の中で、将来を見据えて必要とする肯定的な意見と、直近の課題が優先との否定的な意見があつたため、「構想」に留まっていた。

⇒必要性(マナースクール): 日常利用のマナー、イベント参加のスキル、ソロツーリングのメカトラ、自己研鑽ではなく手を差し伸べる形のスクールがあつた方が、無駄な時間が省け、多様な自転車遊びに時間が割けるようになる。構想発案時の目的に相当する部分。

⇒継続性(スキルアップスクール): 特定のスタッフに負担が掛からないように、また年代を超えて関わられるように、産学連携や二年跨ぎ企画を模索したい。

⇒守備範囲(座学から体験参加まで): パンク修理教室や自転車乗り方教室から、模擬ツーリングや模擬レースまで、スクールのひな型を積み重ね、行政や警察にも取り入れてもらえる内容にしたい。

⇒運営(等身大、役割分散): 運営の基本は、リスク分散の図れる、組織で遊ぶツーリングコンペティションを軸に組み立てたい。等身大運営とも言えるが、日本には馴染みの薄い概念。その対極にイベントサイクリングがある。

⇒応用(情報発信、人材交流): 応用と言うより、事業内容変更前の理想形、「告知」～「実践」～「報告」の流れとして、「イベントカレンダー」～「学習トレジャー/補完企画」～「Web展開」は、「サイクリストライセンス」の別枠での議論が必要だが、忘れてはならない。

◇補足(別記): ツーリングコンペティションへの拘りとプロショップへの呼び掛け案



まず左図「サークルライン」のように、[春需で情報発信]、[秋需で人材交流]のループを想定し、自転車の二面性をより多くの関係者が理解することを前提に、三種の道(街道・山道・町の道)を網羅するツーリングコンペティション運営の標準化を軸に、日常利用～ツーリング～レースと、幅広く二年跨ぎ企画を継続できる仕組みとして、スーパー先達が所属する、地域貢献型マルチサイクリングクラブのネットワーク化が究極の企画と考えている。

しかし、一般道の自由使用(日本のホワイトサイクリング)と曖昧使用(UCI的ロードサイクリング)が混沌としている「日本の実情」があり、玉石混交自転車ソフトをワンストップで扱うのは難しいと判断。

その上で敢えてツーリングコンペティションへの拘りです。まず日常利用とスポーツ利用は常用速度が異なり、ツーリングとレースの境目は個人TTの運営方法の違いになると、諸先輩が語っている。つまり、不連続を認めている。。

日本のホワイトサイクリング vs UCI的ロードサイクリング
 ソロ <vs≤ クラブ≤ガイド≤コンペ≤イベント <vs≤ レース
 「自転車ソフト六分割チャート/ホルモージェンズ版」
 日本的グループ活動がグレーに、UCI的は全てがサイクリング!

そしてフランス人の考える自転車遊び、ブルベやMTBラリーレイドに触れ、走り出したら自己責任やリパーススタッフなど、組織で遊ぶノウハウが普通に共有されていることに目から鱗が。。

しかしそのままでは日本への導入は難しいと考え、アレンジして「とれとれバイク」や「ルートN」を、MTBブームの最中に仕掛け、雑誌でも紹介される。中上級者には受け入れられたが、既存の団体からは時期尚早と判断され、前者は自ら情報発信を諦め、後者は「PBPブルベ」に衣替えするもアンダーグラウンド状態に。どちらも有志による運営で今に至る。。

確かに一般への普及という点では、世間から乖離しており、日本の実情に合った自転車遊びを模索する実証実験企画から、「THT26◆自転車さんぼ」を見つけ出し、春と秋の共同告知や、イベントのサブメニューへの採用など、一定の成果を挙げる。そして、東本大震災の復興支援イベントに係わる中で、警察庁交通規制課から、自転車ソフトの標準化の必要性を指摘され、それらを応用した「サイクリングネットワーク再構築(≒自転車さんぼネットワーク)」を自転車協会に提案するが。。

春需で情報発信⇒スクールの案内

| 2022 | 2023 | 2024 | 2025 |
|-------|-------|-------------------|-------------|
| 助成金1 | 助成金2 | リングリングプロジェクト | 助成金3 |
| ○●●●● | ○●●●● | ○●●●● | ○●●●● |
| ひな型1 | フル1 | ひな型2 フル2 (2年跨ぎ企画) | ひな型3 全長スクール |

自転車協会の目指す「春需でソフトも売ろう!」は、発想自体は間違っていないが、具現化には幾重にもハードルがあり、その最たるものが「日本のホワイトサイクリング」と分析し、今回の「Thinkサイクリング山口」+「補完企画」となっている。

秋需で人材交流⇒ひな型の実験実施

そこで「自転車月間スクールの」を全体的に行うに当たって募集する「会員」の条件として、ショップとユーザーが協力してスクールのひな型作りを求めたい。それは「トレジャーハント26」のように、実験企画として試行錯誤前提で構わない。

一方、春と秋のイベントカレンダーや、月々のWebマガジンへの情報提供もお願いしたいが、それらは補完企画の守備範囲になるので、別枠でどうするか考えたい。その上で補完企画の役割として、クローズド&オープンも含んだ、三種のツーリングコンペティションの知名度アップが最重要課題と認識したい。